

東村山市民テニスクラブ協議会機関紙

コートとり当番担当クラブ

3月: 4 月のコート: 東住 B

4月: 5 月のコート: 恩多 A

5月: 6 月のコート: 本町 B

発行責任者 柳 利夫
住所 東村山市萩山町 5-6-26-301
Tel. 0423-94-3923
編集責任者 佐藤多喜男

特集

東村山市民テニスクラブ協議会
昭和60年度定期総会報告

2月17日(日) 14時から 東村山スポーツセンターに於いて、第13回の定期総会が開催されました。参加者34名でしたが熱心な討議を通じてお互いの認識を深め合うことの出来た有意義な総会でした。提案された議題はすべて原案通り承認されました。今月号はこの総会の報告を特集し他の定期掲載記事は休ませていただきますのでご了承下さい。

総会の冒頭ご挨拶に立たれた太田名誉会長は参加者の少ないことに付言され、我々のクラブは単にテニス技術の向上のみを目的とした会ではないことを改めて力説され、全会員がこのような会に積極的に参加し、会員一人一人がこのクラブを運営していると言うことの認識をもつよう努めるべきだとの主旨のお話しをされました。名誉会長独特の穏やかな口調ではあつたが、真に重要な向題であり、この機会にもう一度皆んながめいめいで考えて見る必要があると思ひました。

議事内容以下の通り (議長 東住クラブ 広瀬順裕さん) 終了 17:00



1) 昭和59年度活動報告

① 事務局報告 (笹野井事務局長)

1. 春・秋大会の成績

下記の通り市民テは好成績をおさめた。

春	男DA		M		女DA		社卒D			
	①	②	①	②	①	②	①	②		
			吉永	武田			米沢			
			吉永	吉永			横山			
女子							宮沢			
							高瀬			
	本保	樋口	武田	中川	三原					
	増沢	山下	武田	山口	江原					
			加藤							
			棚田							
秋	男SA		女SA		男DA		女DA		抽S	抽D
	①	②	①	②	①	②	①	②		
			武田	小林	岡野	吉永				高瀬
					大島	川島				宮沢
女子				豊山		江原	小山	米沢		
						増本	永井			
	吉永			三原	木村			宮沢	横山	
	広瀬				藤井				米沢	
					遠藤					
					岩立					

空白部分は60年度におなたの名前を入れるためとてあるので、
「ホワイトユーモア」

2. 第8回太田杯市内団体戦

男子 優勝 = 東住A

女子 優勝 = 恩多A, 準優勝 = 本町, 3位 = 恩多B

3. 太田先生ダイヤモンド婚を祝う会

59年6月17日 市民センターで開催、各方面から200名参加

4. 柏崎へ遠征

59年8月24日~26日 男子15名、女子10名参加

5. 夏季合宿

59年7月27日~29日 元九里知リン村 参加者10名

6. 忘年会

59年12月9日 スポーツセンターで開催

7. その他 雪対策に昔魔は年だった。

以上

② 技術部報告 (武谷技術部長)

1. 定期練習

(1) 初心者クラス: 6月単位のス7-14形式 グラウンド・ストローク

サーブ、ボレー、スマッシュの基礎練習を行なった。1月、2月の度重なる大雪のため、前期の練習が十分ではなかった。しかし一年間を通じて、予定通り終了できた。

(2) 初級・中級者クラス: ストローク別集中練習形式を採用した。

(4.5月、ボレーを中心にサーブ、スマッシュ、6.7.8月、グラウンド・ストロークを中心にサーブ、スマッシュ、9.10.11月、試合、11.12月、スマッシュとサーブ)

(3) 年度の早い時期にきちと1人クラス分けができていく一部困難が全いた。

(4) クラス別・時間別の練習は、時間の有効的利用という点では評価できず、(水)次ような問題を指摘された。

(1) 全員相互のコミュニケーションに欠ける。

(2) 伝達事項が伝わりにくい。(3) 前半と後半で人数の極端なアンバランスが生じていることがある。(4) 技術部側から4時間出たのは10時の時生じている。

(5) 指導体制は各クラス統一をきんとしてきたが、指導方法については十分検討の余地がある。

(6) 年2回予定した部内大会は、前期の大雪のため、前期の試合からはずし、後期の一回とされた。しかし、12月の大会には、近々120名程度の会員が参加し大変喜ばれた。

2. コミュニティ

(1) 一部の技術階級に指導員が、(2) 4月2日(日) 部全体の運営にばらばらな状況。

(2) 週一回の練習だけでは上述に限りがある。大人に型で練習するよう呼びかけられた。はすしも参加は良好だった。

(3) コミュニティ全体の運営については、3月(運営委員会)で検討されたが、十分な決定が得られなかった。

3. 技術部会・研修会

(1) 予定の6回は、秋の市民大会時(7)回開けず、5回と行った。(3月、7月、11月、12月、1月)

(2) 内容の要点をコート上に投擲する口で、あつたか、実行できずだった。

(2) 研修会については、技術指導の内容について研修も行っており、本年度の内容については十分の研修が完了できたと報告。

4. 部外者による講習会

(1) 市民テニス主催による2回(房前町立:初心者対象)を行った。2月日は6人と参加者少なかった。一つは体育館の球足が早いのかさうわかれたようであり、他にも問題があれば改善の余地がある。

(2) 硬式テニスの主催による本県教員(中級者対象)には市民より18人が参加した。(全体で28%参加)

(3) 庭連協主催による講習には市民より2名参加した。これは初心者をお教えするための講習であって、もう少し参加して欲しい。

5. 対外試合

(1) 有限大会、(2) 太田杯争奪東京都府村庭球大会(庭連協主催)、(3) 女子組庭球府村対抗戦(庭連協主催)、(4) 柏戦には市民テニスの多くの選手が活躍したほか、その他にも各種大会で優秀な成績を挙げた人が多かった。その中でもとくに某約で活躍した。

6. 圖書の貸出し: 今年も近へ8人の人が5冊の本を利用したといふ。新しく購入した本は『日本テニス協会60年史』のみであった。宣伝不足が指摘された。

④ 決算報告 (早川財政部長)

1. 昭和59年度会計決算報告

	予 算	決 算	備 考
収入の部			
前期より繰越	1,726,644	1,726,644	
会費	3,100,000	3,152,200	
雑収入	140,000	150,163	
収入合計	4,966,644	5,029,007	
支出の部			
コート代	1,020,000	720,400	
ボール代	450,000	465,360	
器具購入費	400,000	0	
団体加盟費	40,000	20,000	
会議費	125,000	78,375	
保険料	400,000	299,800	
技術向上費	225,000	260,500	
視察費	250,000	195,000	
事務局費	256,644	257,893	
渉外費	50,000	50,000	
広報費	300,000	228,795	
15周年記念事業	150,000	150,000	別途積立
各クラブ運営費	350,000	350,000	
予備費	950,000	40,000	
支出合計	4,966,644	3,108,203	

差引残高1,920,804円は、昭和60年度へ繰り越しとなります。以上のとおりご報告いたします。

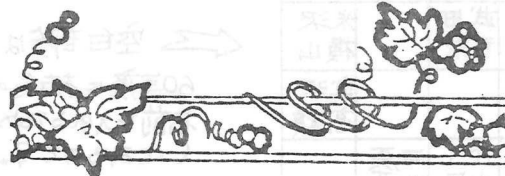
⑤ 会計監査報告 (杉山会計監事)

2. 昭和59年度会計監査報告

昭和59年度決算報告にたいしまして会計監査の結果、収支、帳簿等に相違ないことを認めます。

昭和60年2月17日

会計監査 杉山邦夫 工藤昭洋志



(2) 昭和60年度活動計画

① 事務局 (笹野井事務局長)

これまで13年のクラブ運営を土台とし、その反省の上から東松山市民テニスクラブ協議会会則の前文について改めて見直し、深く考え、そして実行して行く年度にしたい。

即ち

1. 私たちのクラブはテニス技術修得を柱に、健康保持と増進及びコミュニティづくりの場である。
2. 自主的なクラブ運営により全員が基礎技術を修得出来るよう配慮し、又指導者を意識的に育てる。
3. 技術修得、クラブ運営、クラブづくりの活動を通じてクラブ員相互の親睦を深める。そして私たちのクラブ内だけにとどまることなく、東松山市民にも連帯してテニス同好者のよりよい環境づくりをして行く。
4. 以上のような内容の実践をもて新しいスポーツマン精神を追求する集団とする。

以上のようなことを私たちの日常の行動規範として活動して行きたい。

以上

③ 広報部報告 (佐藤広報副部長)

1. 枚数紙としての必要条件をほぼ満たした。
 1. 発行時期(月初めの土日)の原則はほぼ達成された。
 2. 会の運営に必要な情報はほとんど掲載した。(運営報告、大会変更)
2. カット発行の基礎的な条件は着実に満たし前進した。
 1. カット発行の組織体制の定着、2. 部員の各1772人制の確立
 - 1) 部会の削減(早回実績3/8、9/10、10/21)、2. 印刷の外注
 3. 運動記事の掲載(筆者 武各技術部長に感謝)
1. 月別担当者の紹介

3月/川村、4月/木村(専)、5月/河野、6月/黒岩、7月/至崎、8月/菅谷、9月/小林、10月/河野、11月/増本、12月/岩立、1月/菅谷、2月/河嶋
3. その他
 1. 広報部5年以上永年在職者 河野(兼任)、佐藤(専任)、川村(兼任)若返り、マンネリ化防止のために皆様お力で今年はこの人数を...
 2. 今後の課題

記事内容面でいささか多くの会員が気軽に登場出来る様にする必要がある

以上



Handwritten calculations: 12/20, 12/20, 12/20

② 技術部 (武名技術部長)

1. 定期練習 (Buコート室11)

- (1) 練習時間帯は表の通りである。
- (2) 土曜日については初心者のみ、2時~4時に定期練習を行なう(両又は片面)。(表を参照)

(3) 練習内容

- ① 初心者: 6ヶ月単位のスクール形式で、フロントストローク、サーブ、ボレー、スマッシュ及びバックハンドの基礎練習を行なう。
- ② 初級・中級者: 全体のスケジュールに次のように各種ストロークを集中練習する。
 - 1,2,3月: フロントストロークとサーブ及びリターン。
 - 4,5月: ボレーとサーブ及びリターン。
 - 6,7,8月: サーブ、リターン、スマッシュ及びボレー。
 - 9,10月: 試合(市民大会)
 - 11,12月: サーブ、ボレー、ボレー、スマッシュ及びバックハンドの複合技術、及びストローク。

- (4) 指導体制: 各クラス(固走)において指導に当たる。
- (5) クラス分け: 初級・中級については出来るだけ早い時期に調整する。
- (6) 指導体制の強化: 若干名の技術部員を補充する。

2. コミュニティ

引き続き、コミュニティ全体については運営委員会にて検討するが、当面、時間帯は表の通りで定期練習を行なう。尚、指導体制については中心的人員指導者以外に、技術部員全員で行なう。

3. 技術部会・研修会

奇数月の末日(土曜日)とする。(2時~4時30分: 研修, 4時30分~6時30分: 部会) 又は 研修会については毎月末日(土曜日)に行なう。

4. 外部指導者による講習

市民テニス会として、年2回開催し、その他硬式卓球、卓球協会の講習会にも派遣する。尚、参加者の一部補助について、その対象は次の通りとする。

- (1) 市民テニス会
- (2) 硬式卓球会
- (3) 卓球協会
- (4) 日本テニス協会主催

以上の講習会に参加した者には参加費の半額を予算の範囲内で補助する。

5. 部内大会

6月と12月の2回行なう。形式は後程検討する。

6. 対外試合

対外試合の結果をまとめる。

7. 図書: 利用者から必要か大いに宣伝を強め利用者を増やす。また、必要に応じてビデオソフトの購入も検討する。

(表)

時間	コート番号				
	1	2	3	4	5
8時~10時	自由		自由 (初心)	ジュニア	
10~12	定期練習 (初級, 中級)			定期練習 (初心)	
12~14	自由				
14~18	自由		研修会 (技術部) 14~16時		
時間	コート番号				
	1	2	3	4	5
9時~13時	自由				
13~14	自由				
14~18	自由			定期練習 (初心) 14~16時	

③ 広報部 (佐藤広報副部長)

- 1. ガットの発行内容印刷については59年度の実績をベースに一層の発展拡充を図る。
- 2. 編集・作成については59年度で検討した3人制から2人制で定着させる。ガット編集マニュアルの作成を検討する。
- 3. その他、紙面のマン初化防止対策を立てて行きたい。

以上

④ 財政部 (早川財政部長)

60年度予算は下記の通りとする。

昭和60年度予算(案) 事務局

	予 算	備 考
収入の部		
前期より繰越	1,920,804	
会費	3,100,000	
雑収入	150,000	
収入合計	5,170,804	
支出の部		
コート代	1,293,000	
ボール代	465,000	
器具購入費	200,000	
団体加盟費	20,000	市硬式卓球
会費徴収費	125,000	幹事会、各部会ほか
保険料	340,000	
技術向上費	260,000	外部指導者講習会ほか
租税	160,000	夏合宿・忘年会ほか
事務外局	287,804	
渉外費	60,000	
広報費	250,000	ガット代
15周年記念金	150,000	別途積立金としておく
事業積立金	360,000	各クラブへ活動補助として
各クラブ運営費	1,200,000	
予備費		
支出合計	5,170,804	

昭和60年2月17日



⑤ 60年度新役員

運営委員会事務局より60年度新役員が下記の通り提案され原案通り承認された。

- 名誉会長 太田芳郎
- 相談役 浦川親俊
阿辺川貞夫
筑紫 孝
- 会長 柳 利夫
- 財政部 部長 早川洋一
副部長 松本美智子
- 技術部 部長 武谷直也
副部長 長井庸二
- 広報部 部長 佐藤多喜男
副部長 黒岩俊雄
- 事務局 笹野孝之
石黒未広
浅田元弘
中根一夫
山口悦子
武田栄美子
- 会計監事 杉山邦夫
宮沢弘二

以上

“川村広報部長退任”

このたび7年間広報部を担当されました川村さんが退任されました。退任のご挨拶をいたさるべく紹介します。

◇今までの広報部の方々、また原稿をお寄せ下さった方々、ご協力ありがとうございました。佐藤部長、黒岩副部長の下で個性あふれる紙面になります。乞ご期待！“定年”後のレベルを期してあります(川村)

☆お知らせ!

- 1) 18日~31日までスミウコート補修工事につき運動公園コートで
- 2) 春季テニス大会については3月18号市報を見て下さい。尚4月号のカットに詳報します。

編集後記

◇今月号は総会精集で4ページで、総会に出席出来なかった方は特に黙読を。◇広報部で7年間カンパツ川村さんと、5年間働きづめの河野さんが退任。現任のカットの基礎を築かれた両氏の功績ははかり知れない。本当にご苦労様でした。

こんどは皆さんで二人にテニスを教えて上げて下さい。

⑥ その他

事務局より夏季合宿に対するアンケート集計の発表が下記の通りなされた。

夏季合宿アンケートのまとめ

60. 2. 17.

夏季合宿に対する皆さんの御意見を伺うアンケートを実施いたしましたが、回収率が約17%(57/304)とあまりよくありませんでした。これはアンケートの取り組み方や内容等にも問題があったと思いますので、今後に生かしたいと思います。

御提出いただいた方々には、深く感謝するとともに、これからの合宿に役立てたいと思います。以下、その結果を御報告いたします。

I. 夏季合宿に参加したことがあるかないか。		ある 23人	ない 304
II 『ある』と答えた人の内容		<感想・その他>	
(1) 参加回数	(2) 感想	4. 技術向上した 3人	
		5. 親睦を深めた 17人	
		6. 満足できる練習ができた 4人	
		7. メンバー固定化で新鮮さなし 2人	
		8. 練習時のアドバイスが足りない 1人	
		9. 参加できない 2人	
		10. 参加が中途半端 2人	
		11. 技術向上をほしかった 2人	
III 『ない』と答えた人の内容		<理由>(別の予定があった人以外)	
(1) 理由		1. 泊りは不可能 2人	
		2. 日数 2人	
		3. 費用 1人	
		4. その他 1人	
IV. 今後の合宿について			
(1) 存続の可否	(2) 改善すべき点		
	(a) 合宿の目的・内容	1. 技術向上にしよう 7人	
		2. 技術向上と親睦を両方 7人	
		3. ファミリー色彩あつてよい(親睦をよい) 4人	
		4. どちらでも目的はよいこと 3人	
		(b) 合宿の内容	
		1. 各人の欠点を補う練習 2. 日程を短くする	
		3. 試合形式を望む 3. 費用を安くする	
		4. 専門コーチと交えた練習 4. 親睦の意味が問題である。	
(c) その他			
1. 多様化している。7人7(目的)別に実施したらい。			
2. 予定(日数・内容)をできるだけ早く知らせて欲しい。			
3. 女性に負担をかけるまいようにして欲しい。(専任準備で)			

事務局

(3) 質疑応答

活発な質疑が行われたがその内の一部を記載いたします。

- ① 対外試合などに参加を容易にするため外部上位団体(吹奏楽部)などに加盟してはどうか。 --- (答) 今年度は考えていない。
- ② ガット張り器を購入してはどうか。又ビデオ装置の購入を長期的に考えたい。 --- (答) 置く場所・使用効率などを考えて現状では見送りたい。
- ③ 夏季合宿のアンケート結果を踏まえて今後どのように運営して行くのか。 --- (答) 具体的にまだ検討していないが、一応従来通りで考えている。
- ④ 通産省跡地利用計画を調査して市の計画に我々の要望(コートを作る)を入れる働きかけは出来ないか。 --- (答) なるべく早い時期に調査し報告したい。
- ⑤ 会費未納者に対する納入促進策はないか。 --- (答) 預り金(退却時返金)をいたぐ方式などを考えられるか。あまりいい方法ではない。(本件結局本人の自覚に期待するしかないのではなからうか)

☆以上の経過で提案された議案はすべて原案通り承認されました。